

非常時に「お互いさま」の思いをこころに留めて

～ 新型コロナウイルス クラスタ発生した施設に応援の派遣を ～

大阪府では新型コロナウイルス感染でクラスター（集団感染）発生した福祉施設に応援として、府内の他の施設から介護職員を派遣する—という仕組みが作られました。

「新型コロナウイルス感染症に係る社会福祉施設等への応援職員派遣体制」と言い、豊年福祉会では施設並びに2名の職員が登録しています。

（実施は大阪府であり、実際の調整は大阪府社会福祉協議会・施設福祉部がされます。）

令和4年1月28日～31日の4日間、豊年福祉会・特別養護老人ホーム天の川明星から、^{うらへひであき}卜部英明（当時は特別養護老人ホーム天の川明星・フロアーリーダー）が府内のある施設に応援に行きました。

その様子をインタビュー形式でご報告いたします。



Q：まず、派遣先の状況を教えてください。

「今回はグリーンゾーンへの応援でした。初日は到着して抗原検査をし、陰性が確認されたのでフロアに入りました。

フェイスシールド、手袋、マスクを着用し、食事、排せつ、の介護をしました。

ご入居様は特に違和感を訴えられることもなく、ずっと受けいれてくださったように思います。私も自然体で入ることができました。

ただ、ご入居様の訴えをどこまで聴いたらいいのか、この対応で良いのか、と迷うこともありました。

そのつど、職員さんに何度も質問しながら進めていきました。職員さんは大変な状況ながらも丁寧に親切に接してくださいました。」

Q：最初、派遣の話を聞いた時の感想を聞かせてください。

「正直なところ、不安、怖いという気持ちがなかった、と言えば嘘になります。一方で、このようなことを経験していることは私の施設に何かが起こった時に勉強になると思い、「勉強させてもらう。」という気持ちが同時にあったのも事実です。」

Q：どのようなところが勉強になりましたか？

「私の施設もマニュアルは作っているので、再勉強を重ねるという印象でした。が、新たに教えられたこともあります。

知識をしっかり持っておかないと「行う必要のないこと」を良いこととして平然と行っている、行わないといけないと信じていたことが「行っては逆効果」ということがある、と痛感しました。

それらをきちんと理解し学ぶことができました。」



Q：4日間を終えての気持ちは？

「あっという間でした。役に立てたならば嬉しいです。緊急事態というものは、「明日はわが身、私のところでもあり得る。」と常々思っています。そのためにもこの様なことは経験しておいた方がいい、と思いました。感染対策をしておけば、過度におびえる必要がないことも実感しました。また、私の仕事をカバーしてくれた私の施設の職員にとっても感謝しています。

特別養護老人ホーム天の川明星

施設長 西田孝司

要請依頼があった時、自施設も職員体制に決して余裕があるわけでもないのに、「(要請が) 本当に来たな、応援の職員、出せるかな、...。」と思いました。

ト部さん本人への感染に不安がなかったわけではないですが、施設内ではこれまで度重なる感染対策を勉強してきたこともあり、過度の心配に至ることはありませんでした。

しかし、勤務体制のシフトも決まっている中、勤務調整ができるのか、そのことが一番気がかりでした。しかし、送り出す側の職員が十分な協力体制を取ってくれて、なんとか派遣が実現できました。

今だから言いますが、送り出した施設職員の気持ちを考えると私の中で『ありがとう、不安だっただろうー』との思いが交差していました。

今回の応援派遣については先方の施設様が早く収束されることを一番に願いつつ、ト部さんの無事を祈りつつ、この経験は私共の施設にクラスター発生、もしくは陽性者が発生した時にスムーズな対応ができる良き機会としました。

そういった意味の「うちの施設のキャリアを積みたい。」と思いました。経験して自信につながっていく、ことがあると感じています。

実際にト部さんは「多くのもの＝学び」を持ち帰ってくれています。

こういった応援を何処の施設も危惧する気持ちはわかりますが、実際に行動をしてみないと解らないことがあり、多くの人が体験してもらえれば、と思います。

何より非常時に在って、社会福祉施設同士が助け合うー このことに意義があると思います。

細やかに調整をくださった大阪府社会福祉協議会様、無事に任務を果たしてくれたト部さん、そして快く送り出し自分たちの施設を守ってくれた職員全員に心から感謝をしています。



6月8日、表彰式が行われました。当日は読売新聞社が取材に来られ、6月14日の朝刊に掲載されました。

